三井物産の新しい働き方
～Work-X(Workplace Experience)の取組み～

MITSUI & CO.

2020年3月2日

背景と環境認識

【背景】

- 2011年3月　　三井物産本店ビル建替えを含む「OH-1プロジェクト」を開始
- 2014年11月　仮社屋への移転
- 2020年5月7日 新本社への移転

【環境認識】

- この5年間で、ビジネスを取り巻く環境は大きく変化

  →複数の産業が絡み合い、様々な消費・サービスが生まれ、人々の働き方も多様化

  →新たな価値観や技術が瞬く間に拡がり、変化のスピードがますます加速化している

  →時代変化に柔軟に対応できる体制が求められる時代に

三井物産の目指す姿

◆三井物産の2030年に向けた長期的なビジョン

～強い「個」がビジネスをつくる三井物産へ～

- 社員一人ひとりが力を高め、社内外のパートナーと新しい価値をつくる。

◆三井物産のWorkplace Experience（Work-Xプロジェクト）

・多様な「個」が集まり、「偶発的な出会い」や「自発的なコラボレーション」を通じて、新たな挑戦と創造を生み出す。

・多種多様な「個」を結びつけている求心力は、「個」の可能性を信じて任せる文化と、それを支える良質な経験の場。

・「各組織の高い生産性」を維持しながら、新しい働き方を検討するプロジェクトが発足。社内横断組織により、新たな価値創造に向けた施策取組中。

成長を加速する、7つの施策

【成長加速に向けての2大テーマ】

Agile & Evolving
機動的に進化し続ける

Human Centric
より「人」を重視して

【7つの施策】

① **全社単位(約4,500名)でグループアドレス(＊)を導入**。業務・プロジェクトニーズに応じた機動的なチーミングを実現
＊グループアドレス：　組織ごとのフリーアドレス

② **総合力発揮を促す組織配置**により、部門を超えたコラボレーションを促進

③ **コミュニケーションエリアの設置**により、よりカジュアルで自由なアイデアを生むコラボレーションを演出

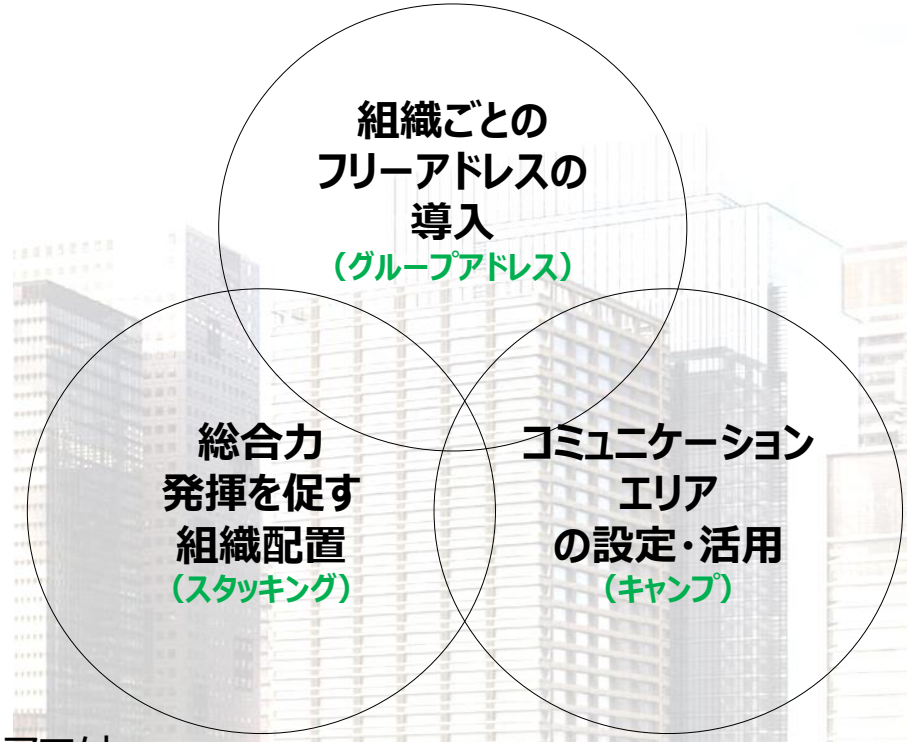
④ **戦略的に社外パートナーをより内部に招くこと**により、多様な人材とのより多くのコラボレーション機会を提供

⑤ **ホスピタリティの諸施策**により、“おもてなし”を充実させ、ゲストとより深いコミュニケーションと互いの信頼づくり

⑥ **次世代の働き方を実現するデジタルサービス**により、生産性を高める、働きやすい職場環境を実現

⑦ **新たな専門組織（Work-X室）**が、データ測定と効果検証を通じて、常にオフィス環境を改善

成長加速に向けた、三位一体の取組み



新本社の執務フロアでは、
「組織ごとのフリーアドレスの導入」、
「総合力発揮を促す組織配置」、
「コミュニケーションエリアの設定・活用」 という三位一体の施策を展開。

「タテ組織の高い生産性」を維持しながら、部門を超えた機動的なチーム編成、情報・アイデアの共有、新たなアイデアを生むコミュニケーションなど、ヨコ・ナナメとの連携を強化し、さらなる成長加速を目指す。

コミュニケーションエリア概要

新しい仕事をつくり、良質化・果実化し、
三井物産として企業価値を高めていくための準備をする場

◆Social（ソーシャル）：

オープンな雰囲気で、自由闊達に意見交換を行なう場

◆Co-work（コワーク）：

プロジェクト単位での小中規模の議論をする場

◆Focus（フォーカス）：

思考を深め、静かに戦略やアイデアを練る場

◆d.space（ディースペース）：

デジタル・トランスフォーメーションを推進する専門人材が集う場

目的に合わせた働き方

ABW（Activity Based Working)を実現する職場環境

◆打合せ特性に合わせたフレキシブルなスペース

◆周囲も気軽に参加可能

◆仕事に集中できる環境

◆イベント開催も可能

360° business innovation.